

「ヤングケアラー」に関する実態調査の実施について（案）

趣 旨

- 本県におけるヤングケアラーの実態について、子どもの視点、学校の視点等から多角的に把握し、今後具体的な支援策及び支援体制を検討する際の基礎資料とする。
- 調査を通じ、関係者等におけるヤングケアラーに対する理解を促進する。

調査の概要

- 先行実施した国の調査との比較により本県の状況を分析できるよう、以下のとおりとしたい。

対象

【児童・生徒向け調査】

- ・ 小学 6 年生 約16,800人
- ・ 中学 2 年生 約17,600人
- ・ 高校 2 年生 約17,600人

【学校向け調査】

- ・ 上記児童・生徒向け調査の対象となる全小中高校 約600校

※分校や義務教育校、私立学校、中高一貫校、全日制、定時制及び通信制を含む

実施時期・手法等

【実施時期】

- ・ 7 月初旬から中旬頃
（※ 7 月初旬までに実施環境を整備し、夏休み前に実施）
⇒ 10 月中に速報値報告、12 月（or 2 月）に公表（予定）

【実施時間】

- ・ 学校時間を活用し、学校内で実施することを基本とする方向で教育委員会等と調整していく
（学級活動、ロングホームルーム等の活用を想定）

【実施手法】

- ・ 児童・生徒のプライバシー確保等の観点から、公立校では小中高とも一人 1 台配備されたタブレットを活用したweb調査とする方向で教育委員会等と調整していく

設問内容

【児童・生徒向け調査】

- ・ 国の調査（小 6：全19問、中高：全22問）をベースに、県独自の設問を加えて20～25問程度を想定

（独自設問の想定）

- ・ 進路への影響、福祉サービス利用の有無、（自分でなくても）周囲の困っている人の有無 等

【学校向け調査】

- ・ 国の調査（全18問）をベースに、県独自の設問を加え20問～25問程度を想定

（参考）その他ヤングケアラーに関連する取組

- 早期発見・把握 ⇒ 県政出前講座、民生委員・児童委員への研修等を通じた普及啓発、（ヤングケアラー実態調査）
- 相談支援などの支援策の推進 ⇒ 市町における包括的支援体制の構築等に向けた取組の推進
ピアサポート団体等を通じた支援ニーズの把握や支援体制の構築
有識者等による意見交換会の開催
ヤングケアラー・コーディネーターの配置（R4.4月より）
- 社会的認知度の向上 ⇒ HP等による広報の実施、各種研修会の実施等